

長泉町わくわく塾・伊豆八十八霊場巡礼報告書

報告者 名倉富美子

年月日 2008年04月29日(火)無風快晴
回数 第12回巡礼
参加者 33名(現地参加2名)

- 巡礼寺・順
- * 四十三番札所 大安寺(たいあんじ)
 - * 本尊・釈迦如来 * 山号 乳峰山 * 曹洞宗 * 草創・不明 * 薩摩十六烈士の墓(市、指定史跡)
 - * 創立年代は不明で、言い伝えによると、創建当時は因善寺と称し、真言宗であった。
1590(天正十八年)僧、寂用英順が二世となり、曹洞宗に改宗。
 - * 山号の乳峰山は、裏山の形状が乳房に似ている事から付けられた。

 - * 四十二番札所 長楽寺(ちょうらくじ)
 - * 本尊・薬師如来 * 山号 大浦山 * 真言宗 * 草創・不明
 - * 創立年代は不明で、言い伝えによると、別の所にあったのを1555(弘治元年)現在地に移転。本尊・薬師如来像は、大浦鍋田湾より出土した。
 - * この長楽寺で1854(安政元年)12月21日、日露和親条約が調印される、また安政二年1月5日には、日米和親条約の批准書が交換される、その時の資料が宝物館にあります。
 - * 長楽寺の梵鐘は、伊豆八景の一つ「長楽寺の漏鐘」といわれ、江戸期には下田港の出船入船また町民に親しまれた。

 - * 四十一番札所 海善寺(かいぜんじ)
 - * 本尊・阿弥陀如来 * 山号 富巖山 * 浄土宗 * 草創・不明
 - * 米国初代総領事館として使用 * お吉物語で有名
 - * 創立年代は不明で、言い伝えによると、僧、照善が縄地村に真言宗の草庵を創立。
後に下田市本郷に移転、僧、量誉が天気院と称し、浄土宗に改修現在地に移転し海善寺とした、1590(天正18年)

徳川家康により下田に封じられた、家臣戸田忠次の屋敷跡です。

* 山門は江戸時代の作

* 四十四番札所 広台寺(こうだいじ)

* 本尊・聖観世音菩薩 * 山号 湯谷山 * 曹洞宗 * 草創・不明

* 創立年代は不明で、言い伝えによると、創建当時は桂昌庵と称し、蓮台寺温泉の郊外の高台にあった。

1612(慶長十七年)僧、宗逸により、現在地に移され、曹洞宗、湯谷山・広台寺となる。

* 伊豆横道札所の十一面観音像も合祀されてる。

* 四十五番札所 向陽院(こうよういん)

* 本尊・地藏菩薩 * 山号 三壺山 * 臨済宗・(建長寺・末寺) * 草創・1403(応永九年) * 本尊・虚空蔵菩薩像は弘法大師作。

* 比叡山の学僧・阿闍梨が虚空蔵菩薩、地藏菩薩の二菩薩を本尊として、地藏密院と称し、創建した。

その後 1492(明応元年)鎌倉・建長寺より、僧、宣梅が臨済宗・向陽院として再興する。

* 四十六番札所 米山寺(よねやまじ)

* 本尊・薬師如来 * 山号 砥石山 * 無属(宗派に属さない) * 草創・733(天平五年) * 日本三大薬師の一つ米山薬師。

* 本尊の薬師如来は行基の作で、越後、伊予、伊豆の三ヶ所にあり、三大薬師といわれる。

* 本尊の開帳は六十年に1度、半開帳は三十年に1度です。

* 米山寺と名付けられているが、宗派に属した寺ではありません。地区の方々が管理している、石段を登った所に本堂があり、五百㌢ほど登ると奥の院があります。

* 四十七番札所 龍門院(りゅうもんいん)

* 本尊・青面金剛明王 * 山号 保月山 * 曹洞宗 * 草創・1099(康和元年) * 通称、相玉の庚申さん

* 創立当初は真言宗の小さな草庵で、山上で見つけた仏像を安置し、相玉の龍門寺と名付けていた。

後年この仏像が、「青面金剛明王」と判り大節に安置されていた、その後衰退していたが 1593 (文禄二年)太梅寺四世・法山宗禅が、再興し曹洞宗に改宗され、現在に及ぶ古刹です。

距離 2 Km + 0.5 Km + 1 Km + 4 Km + 1.5 Km + 3 Km + 2.5 Km = 14.5 Km

タイム 下土狩 5:35 - 下田道の駅 7:45 - 大安寺 8:30 - 長楽寺 9:10 - 海善寺 10:00 - 広台寺 11:03 - 向陽院 11:55 ~ 13:00 - 米山寺 13:40 - 龍門院 14:35 - 金谷旅館 15:10 ~ 17:00 - 天城峠 三島 下土狩駅 19:00

温泉 河内温泉 (蓮台寺駅近く) = 金谷旅館千人風呂 (1000円)
その他 法話 = 長楽寺 (2000円)

5:35、下土狩駅で明るくなり始めた空の下、少し風が冷たいが、今日はお試しという2人の方を交えて5名でバスを待つ。空模様は晴。何となく余裕を感じず (明るさと気温のせいかな?) 今日の行程に31名の車内は明るい気がした。

6:45 昭和の森でトイレ休憩 さわやかな新緑に加え 赤、白、ピンクの石楠花 (しゃくなげ) の美しさ八重桜の華やかさ、ミツバツツジの可愛さに眠い目もすっきり! 下田に入り Tさん、Sさんが乗車して総勢33名。7:45 下田道の駅 (開国下田みなと = 今年は開港154年にあたる) でトイレ休憩。穏やかな波になぜかホッとする。

その後 8:00 に柿崎公園 (三島神社前の) にて準備運動をする。三島神社は三島大社と関連があるとの事。境内の左手に 柿崎農業補修学校を創設した鈴木仙蔵翁の顕彰碑があった。



8:07 いよいよ本日巡礼のス

大安寺

スタートである。歩き始めてまもなく左手に「まどが浜海辺公園」を見る。

園内に少し前に終わった風の花祭りの名残が、たくさんの風車が回っていた潮の香を胸に吸い込みながら歩いていくと鯉のぼりが元気に泳いでいるのが目に飛び込んでくる 爽やか！！

そして路傍の赤い蘇鉄の実が励ましてくれているようだ（三沢あけみの歌が頭をよぎる？）鯉のぼり・・・江戸時代中期より町民の間で行われるようになった。黄河の上流、龍門の滝を登りきった魚が、龍となって天に昇るとの中国の伝説に由来し鯉の滝のぼりや登竜門という言葉もこの伝説からとの事。厳しい環境や試練に耐え、困難を乗り越え、逞しく育って欲しいとの願いがこめられているとのこと。



少し歩くと、唐人お吉のお墓がある宝福寺の前を右手に見て、文化会館前を通る。黒船の錨、カノン砲が展示されている。

カノン砲 = 加農砲とも書く。艦砲、戦車砲、高射砲など 口径の割りに砲身が長く長距離射撃に適する大砲 オランダからのものと思われる。

8 : 30 大安寺に到着。ここでは、65番の最福寺とあわせて2ヶ寺の御朱印を頂く。

本堂奥にはインド的な仏様に合掌。境内裏手のがけの斜面にはいくつかの洞があり中に仏像等が祀ってあり思わず手を合わせる。そして、ここには伊豆国七福神の一つ「大黒天」がありご利益を得ようと小槌に触れたのは私だけではありませんでした。

伊豆国七福神・・・向陽院（下田） 恵比寿天（招福）
大安寺（下田） - 大黒天（開運）
長楽寺（下田） - 弁財天（大就）
海蔵寺（入間） - 布袋尊天（子育て）
善福寺（妻良） - 福祿寿尊天（無量）
西村寺（子浦） - 毘沙門天（息災）
普照寺（伊浜） - 寿老尊天（延命）

心地良い風を受けながら歩き 9 : 00 に了仙寺（日米下田条約がここで結ば

れた)にてトイレ休憩。

本堂左手奥に洞窟遺跡があった(これは海触洞窟内を祭った際、人骨と共に、勾玉、水晶製の切子玉、ガラス玉、白玉、丸玉、管玉等の玉類のほか金銅製の腕輪や耳飾り、日常の什器である須恵器や土師器が多数発見された。これらの遺物は死者と共に埋葬された副葬品であり、この海触洞窟は、古墳時代の墓であったことが判明すると共に、南伊豆地域の古墳時代の大きな特色といえる)。

このことから了仙寺の境内の土産物店に石製の商品(玉、大黒天、数珠など)が多数展示されていたことに納得。なまこ壁のペリーロードを通り抜け長楽寺に到着9:10。藤の花の香が鼻をくすぐる。

ここでは住職様のお話を聞く機会を得る。元はここより南の城山で開山したが約450年前(1555)に北条氏の援助により現在地に移封された由緒あるお寺。本尊は薬師如来で、吉田松陰が拘禁されていた長命寺が明治5年の廃仏毀釈により長楽寺に統合された事により長命寺の観音様(伊豆33観音の24番)も合わせて祀ってあると言う。そして伊豆国七福神の一つ弁財天もある。と言う~なんと有り難いお寺さま。仏壇の並びは向かって左が弘法大師像、真ん中が薬師如来、右が弁財天。



了仙寺
横穴遺跡

長楽寺と住職



さて、歴史は遡り安政元年12月21日 西暦では1855年2月7日、日露和親条約が私たちの座したる本堂にて調印されたと言う・・・凄い！！日本の歴史上の大きな変化の時がこの場所に刻みこまれていたのです。

今日、この日、この場所に来て和尚さまのお話を耳にすることの出来た幸運。まさに「一期一会」である。日米下田条約はこの前の年（1854）に了仙寺にて結ばれていた更に和尚さまは、北方領土（千島列島南端のウルップ島から南、北方4島 クナシリ、エトロフ、ハボマイ、シコタン）が1875年、国際法上、日本の領土である事が認められたこと、限りある資源のことを熱く語って下さった。北方4島の面積は愛知県より小さいが福岡県より大きいとのことでした。

また、今まで巡ってきたお寺のほとんどが、真言宗から曹洞宗に変わっている事についてお聞きすると、その時々々の為政者＝権力者の影響が大きいとのことでした。

最後に私たちが両手を合わせて仏様を拝む 手を合わせるといのは、

右手は陽・・・・宇宙、仏様、仏の手

左手は陰・・・・人間、不浄のもの

「右に仏 左に私 合わせて中にぞ ゆかしき南無の一声」、どうぞ「入我我入」の想いを持って合掌してくださいと結んでくださった（ありがとうございました）

参考 数字を陰と陽で表すと、陰は偶数、陽は奇数となる。3月3日、5月5日などを重陽の節句と言うのは、奇数が重なっている事からきている。

尚、本堂の欄間の絵（額）は 中国二十四孝を描いたもので250～300年前のものだという。二十四孝とは中国で古来、有名な孝子24人の総称。元の郭居敬がその伝を記した。教訓書を著したのによる。

境内から出口に向かうと右手に、おがたま（通称バナナの木）があり、昼過ぎに開花し仄かにバナナの香りがするとか～体感したかった。左手には一寸あやめが可愛らしく咲いていましたね。そしてその隣には都忘れが、紫の花を静かに咲かせていた。

9：50再び歩き始める。陽射しは初夏のようである。10：00、海善寺着。太鼓橋を渡り立派な山門をくぐり。お経を唱える。御朱印は自分で押しました。

10：15、市街地を通り。下田駅を左、寝姿山を右に途中カレーの匂いに

お腹が・・・下田奉行所跡が現下田警察署になっていたのは何かのご縁か？

稲生沢川（いのうざわかかわ）川辺に子手鞠の花が風にゆれて気持ち良さそう。風薫るの季語が頭をよぎる。川沿いの爽やかな風を受け路地へなまこ壁の古い家が4~5軒。何とも良い！！（絵心があれば描いてみたい風景だ）

また、ゴミ収集車が爽やかなメロディーを流しながら作業をしていたのが印象的だった。11:03、広台寺到着。（ここは伊豆横道19番札所でもある）本堂に入って直ぐ上にどのような方が乗ったであろうか？輿（こし）が吊り下げてあった。

黄色い石楠花が美しい。そしてその名も「利休梅」という白い花が風に揺れていた。境内左手に「湯権現」の説明板があり（1350年前行基上人が蓮台寺温泉を見つけたとのこと）蹲（つくばい）にお湯が流れていた。女性達は手を浸してうっとり！！さあ、45番札所を目指してGO！

11:55、向陽院着。お経を唱えて昼食タイム。汗ばんだ身体に心地良い風各々楽しいおしゃべり、そして記念写真をパチリ。皆様は満たされた顔をしていたらっしゃいましたよ。裏庭に趣のある池があり、錦鯉とカラーの白い花

印象的だった。

13:00、過ぎ米山寺を目指して歩き出す。川沿いにクレソンの白い花がきれい。途中から車道を一列で安全に歩く。

13:40、米山薬師着。ここは約150年前から無人となった為、地元の篤志家がお守りしているとのこと。ご朱印も管理しているとの事。

御朱印帳を預けてリュックを置いて山頂（奥の院＝薬師堂）へ。杖片手に登るあと250m、あと150mの看板が恨めしい。13:53山頂へ（30名）ヤッタ！広さは3~40坪ほどか？お堂建築



稲生沢川に行く



時の資材運搬の苦勞を思うと信仰の凄さを感じる

下田富士(標高187m)が小さく見えた。まあ、下りの早いこと早いこと。余裕が出来た為か米ツツジとやぶこうじ(別名十両)の多さが目に付いた。早速お経を唱えた

後藤講師「今日はもうひとつ回ります。3時まで仕事をしましょう！」の一声でまた歩き出す。すると東京から車で伊豆八十八所めぐりの老ご夫婦に会う。1日に10ヶ寺位回るとのこと。2人揃いの白衣姿は私達に心地良い刺激を与えてくれた(どうぞお元気でと旅の無事をお祈りする)

途中、上原近代美術館・上原仏教美術館の大きな看板が立っていた 時間があれば寄りたいところだ。少しいくと鯉のぼりの大群?が柿若葉、新緑の畑の上に元気に泳いでいるのは壮観であった(元気をもらおう!)

47番庚申堂(龍門院)は、シャガ(射干)の花が咲く傾斜地を切り開いた形の苔むした石の階段を登った所。無人である境内は草があちこちに、余り人の手が入っていないようだ。寂しさを感じる。屋根の雨樋に、タンポポの綿毛が今にも風に乗っていきそうだ。

さあ、今日の巡礼終了。一路お風呂へ。先月と同じ金谷旅館である。私は湯上りにチュウハイを「旨い!!」を実感したのである。途中で野蒜(ノビル)をつんだのを食べている人もいた。

17:00出発 車中での皆様の一言は、各々の思いがこめられていました。来月より平日、休日組に分かれるのを淋しくさえ感じる。コメントもあり、この講座の一年の積み重ねを感じました。山に夕日がかかり沈みそうな時一日の行程を終える幸せな車中でした。ありがとうございました。

合掌

注

- * 射干(シャガ)・・・シャガはヒオウギと葉のつき方や形が似た植物である。ヒオウギの漢名は射干と書く。ヒオウギとシャガと間違えて命名した射干がシャカンとよみシャガンとなりシャガになった。
- * 都わすれ・・・別名ミヤマヨメナ 承久の乱で佐渡へ流された順徳天皇は白菊を抱えて都を忘れようとした。天皇が愛した白菊はミヤマヨメナだった。時代が過ぎ色が違う花変わりを、都わすれと呼んだ。
- * たんぽぽ・・・古くは鼓草と言われた。つぼみが似ていたため、鼓をたたく音がタンポポになった。
- * 上原近代美術館・・・大正製薬会長、上原正二氏が長年にわたって収集した美術品の

寄贈のもと氏の私財により2000年春下田に開館。セザンヌ、ルノワール、マティス、ピカソ、梅原龍三郎、安井曾太郎、川合玉堂、伊東深水などの絵画た彫刻が多数展示されている。

- * 上原仏教美術館・・美術館同様 上原氏の収集した仏像などが百数十点展示されている。
- * 天城トンネル・・・明治38年河内出身の谷田部強一郎県会議員（後に副議長を務めた）の尽力により完成 大正5年2月に下田自動車（株）（昭和2年に伊東市に本社のある東海自動車に吸収合併される）の設立により下田 大仁間を初めてバスが走った。



四十五番札所 向陽院